

未来ノート

-202Xの君へ-

ハーバード大アイスホッケー部

さのるな さ
佐野月咲

名門大での日々

毎週20冊の読書

代表落選が転機

文武は一つの道

王道じゃない選択肢発信

米国の名門ハーバード大で学びながら、アイスホッケーで五輪を目指す日本人女子選手がいる。元U18(18歳以下)日本代表の佐野月咲(22)だ。

大学はボストン近くのケンブリッジにある。その寮で3年間を過ごしてきた。平日は午前8時に起き、

9時から授業を受ける。専攻は科学史。もともと理系科目が得意だった。東洋医学に興味があり、その歴史的な背景について研究を深めている。

授業が終わると、リンクへ向かう。午後3時から4時間ほど、アイスホッケー部の練習で汗を流す。夕食後は午前0時ごろまで大量

の宿題をこなし、就寝する。ハードだが、刺激的な毎日。「勉強も練習もすごく楽しい」と佐野は言う。

ハーバード大アイスホッケー部はNCAA(全米大学体育協会)1部で準優勝4度。卒業生にはプロリー

グのNHLでプレーする選手も多く、レベルは高い。25人ほどのチームには、米国やカナダのU18代表経験者がずらりとそろ。そのほとんどが、大学からスカウトを受けて入学した選手たちだ。

しかし、佐野は違う。日本に通っていた筑波大付属高(東京)での成績や、英

語の能力をはかるTOEFL、SAT(大学進学適性試験)、面接、エッセーなどの総合的な評価で大学に合格。一般入部の扱いで、チームに加わった。

新型コロナウイルスの影響で、リーグ戦が中止となったため、大学3年終了時点で休学し、現在は日本に帰国中。せつかくの時間を有効に活用しようと、SNSなどで自身の経験を積極的に発信している。「アスリートとしては、決して王道ではない、ユニークな道だと思う。キャリアの過程を伝えることで、子どもたちにも様々な選択肢があるのだと知ってもらえればうれしい」

学問とスポーツを両立する。その原点は幼少期にあった。

(岩佐友)



上 佐野月咲(ハーバード大提供)
下 試合後のサイン会で笑顔を見せる佐野月咲(中央) 本人提供

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。